

にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

会員だより

「青森県青森市」

《第16回 「海の祭典」開催》

第16回「海の祭典」が、海の日発祥の地・青森市を主会場に県内4市町村において、平成13年(2001年)7月20日の「海の日」から29日までの10日間、「豊かな未来 人と海」をテーマに開催されました。

青森地区の主なイベントは、秋篠宮同妃両殿下の御臨席を賜り行われた「記念式典」、森林や川が海に果たしている役割について考える「森と川と海のシンポジウム」、青函メモリシップ八甲田丸を主会場とする「海の総合展」、航海訓練所練習帆船「日本丸」、海洋気象観測船「高風丸」、帆船「あこがれ」「みちのくインドネシア」、ロシア帆船「パラダ・ナジェジュダ」、護衛艦「ゆうぎり・ゆうぐも」などのさまざまな船で行われた一般公開や体験航海の「船舶・帆船フェア」、海上保安庁の巡視船による「みちのく海のパレード in 青森」、「海上保安庁音楽隊コンサート」、その他職場対抗による「和船競漕」、「サンセットジャズコンサート」などの多彩な内容で実施され、多くの方々に海や港を身近に感じていただけたと思います。



夕日に映える「日本丸」



秋篠宮同妃両殿下



海の安全を守る海上保安庁のパレード



海の仕事を紹介する「海の総合展」



小学生達によるロシア製ボートを使った競争

海へのメッセージ

青森県の青い森は
美しい青い海を育んできました
美しい森は
美しい海につながり
美しい海は
世界につながっています

ぼくたち
わたしたちは
この美しい森と
美しい海を育てることで
希望に満ちた豊かな未来に
羽ばたいて行こうと思います

記念式典での未来に向けた
“海へのメッセージ”



「日本丸」を歓迎する蛸貝保育所の子供たち



ほのぼのとした楽しいレースを
繰り広げた「和船競漕」



ライトアップされた帆船「あこがれ」と八甲田丸



「海」「ディズニーメドレー」など楽しい演奏
を披露した海上保安庁音楽隊コンサート

「秋田県能代市」

私たちは先人から受け継いだ郷土を良好な状態で次の世代へ残していく責務があります。本市においては、「快適でやさしさのある生活と環境のまち」を目指し、環境条例や環境計画の策定を図りながら、経済活動の中で、環境に負荷の少ない、地球に優しいライフスタイルの確立に努力しております。

能代市は、奥羽の山脈、世界自然遺産の白神山地、日本海と五つの「日本百選」に選ばれた黒松700万本の「風の松原」、豊かな能代平野を東西に流れる米代川、まさに山、海、川と自然に恵まれた街であり、また市民もその素晴らしい自然を活かした歴史や文化、スポーツに寄せる関心は大変高いものがあります。最近では、先のインターハイで全国制覇52回を数えた能代工業高校を有する「バスケの街」として聞き覚えがあると思います。

《能代港多目的国際ターミナル供用開始》

古くは天然秋田杉や鉱物などの集積地として栄えた能代港も、河口港の宿命か、度重なる米代川の洪水による土砂の流出は、安定した機能を発揮させず、幾度と無く改良計画が進められた。昭和40年代、航路を掘り込み、米代川と本港を分離する計画が策定され、ようやく今日の姿となった。昭和49年8月、5千トン岸壁が完成し待望の開港を迎えた。その後、1万5千トン岸壁の完成、エネルギー需要の拡大に伴う能代火力発電所の立地により重要港湾の指定を受け、現在は石炭や丸太・製材などの輸入港として、また国内物資の流通港として地域経済の一端を担っている。

近年、経済活動のグローバル化が進み、大量消費、大量生産、大量廃棄の時代へと移行してきており、それに伴う輸送手段の効率化が更に求められる中、平成5年度より整備が進められてきた能代港多目的国際ターミナル(－13m大水深岸壁:4万トン級)が本年5月12日に供用開始の日を迎えた。

今後は、この機能を十二分に活かしながら、「北東北における海のゲートウェイ」を目指し、その機能整備やポートセールスに努め、広く地域の活性化に役立っていきたいと考えている。



快晴に恵まれた、供用開始記念式典

《みなとまち能代いきいきフェア》

「港とのふれあい」が生活に潤いをもたらすこと、港が物流の拠点になっていること、港が生活に密着していることの理解を深めるとともに、明日を担う子どもたちに港への「大きな夢」を抱いてもらう。

「海の日」の翌日7月21日(土)と22日(日)の両日、5月に供用開始となった能代港多目的国際ターミナルを会場として、みなとまち能代いきいきフェア第Ⅰ部「みなと祭り2001」が開催された。テーマは～NOSHIRO・みなと・みらい・21～巡視船「ちょうかい」の体験乗船やバスケの街ならではの「3on3inのしろみなと」、「浴衣が似合う人コンテスト」などのイベントの他、国土交通省による能代港のミニチュア模型(10m×10m)の展示、ジェトロ秋田貿易相談、輸出入品販売コーナー、そして地域の特産品を集めた物産展、屋台村、フリーマーケットなどで大いに賑わい、港へのふれあいが大いに図られた。

また、偶然にも護衛艦「しまかぜ(4,600t)」も両日、能代港へ寄港し、その勇壮な姿を多くの観衆に披露し、素晴らしい感動を与えた。2日間の実参集人員は、1万3千人を超え、終日賑やかな会場であった。



護衛艦「しまかぜ」をバックに 3on3 の熱戦が！

《おなごりフェスティバル2001》

このフェスティバルを境に、秋の気配が急に近づいてくるのは何故だろう。今年で15回目を迎える「おなごりフェスティバル」、昨年、一昨年と雨に祟られ、天気予報に愚痴を言いたくなっていたのは市民誰ものはず。今年は、久々に好天に恵まれ、なんと参集人員は23万5千人。能代の人口の約4倍の人、人、人。

去る9月8日土曜日の少し日が傾いてきた頃、まず先陣を切ったのは、「能代七タ」、そして「盛岡さんさ」、初参加である「久喜提灯祭り」、続いて「秋田おなごり音頭」「浅草カーニバル」「青森ねぶた」が続く。その合間を見て、「秋田竿灯」が妙技を見せる。能代七タは全部で3基運行した。「能代市役所ねぶながし会」、これは市職員が街の活性化を願いボランティアで参加、そして「一中若」、「二中若」正に中学生の運行である。素晴らしい！ふるさと教育の面でもベストではないか。

でも、何故、「にぎわい」に「おなごり」のことを載せるのか。それは、能代七タの由来は、今から1350年ほど前、越後守阿部比羅夫が軍船180隻を引いて蝦夷征伐のため上陸したのが野代(能代)港であり、その時、蝦夷を誘き出すために灯籠に火を付け米代川に流した、とのこと。



華麗な盛岡さんさ踊りに続く、久喜提灯祭り、そして能代七タ

「山形県鶴岡市」

《加茂に人工海浜オープン》

本港は、山形県海岸線のほぼ中央に位置し、南端の荒崎、北端の立岩崎に囲まれた摺鉢型の良港で、昭和27年に地方港湾に指定されております。

加茂は、江戸期には、北前船の寄港地として古くから港湾を中心として栄えた土地です。

現在は、一時期ほどの活況を呈していないが、教育、試験研究等水産関係の集積は高く、



海、山で代表される豊かな自然及び庄内羊、磯釣りの伝統など地域に根ざした文化が高い地域です。

近年、庄内空港の開港や東北横断自動車道の供用など広域高速交通体系が整備されていることから加茂地域の新たな海辺の町づくりを展開する時期を迎えています。

こうした中、平成8年度から第6次海岸整備計画では新たに加茂水産高校に隣接する海岸線に自然の岩場を生かした人工ビーチと遊歩道が計画され、地域の社会教育活動や海洋性レクリエーション及びマリンスポーツの場として活用を図るため海岸環境整備事業に着手、平成9年度には「いきいき・海の子・浜づくり」事業の指定を受け、平成14年度の完成を目指して人工海浜の整備が進められております。

これが完成すると、教育施設の場として、また、地域活性化の核としての活用が期待されているところです。



海の日 加茂港大漁フェスティバル



整備中の人工海浜

編集

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク事務局

東北地方整備局 港湾空港部 港湾計画課
調査係(大場)

TEL 022-716-0005

FAX 022-716-0018